

基本計画書

基本計画											
事項	記入欄							備考			
計画の区分	研究科の設置										
フリガナ設置者	ガッコウホウジン カケガクエン 学校法人 加計学園										
フリガナ大学の名称	チバカガクダイガク ダイガクイン 千葉科学大学 大学院 (Chiba Institute of Science Graduate School)										
大学本部の位置	千葉県銚子市潮見町3番										
大学の目的	本学は、教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、学術の中心として理論及び応用を深めるとともに、幅広い知識と技術を研究・教授し、人類の平和的、文化的社会の発展に寄与しうる有為な人材の育成をすることを目的とする。										
新設学部等の目的	看護学研究科は、建学の理念ならびに本学の教育・研究目標、とりわけ地域貢献目標を重視し、保健医療看護に対する社会一般・地域のニーズはもとより、今後の地域保健医療福祉を担える人材育成を目的とする。										
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地			
	看護学研究科 [Graduate School of Nursing Science] 看護学専攻 [Department of Nursing Science] 計	2年	5人	—年次人	10人	修士(看護学)	平成30年4月第1年次	千葉県銚子市潮見町3番			
同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)		千葉科学大学 薬学部 生命薬科学科[定員減] (△5) (平成30年4月) 岡山理科大学 獣医学部 獣医学科 (160) (平成29年3月認可申請) 獣医学部 獣医保健看護学科 (60) (平成29年3月認可申請) 倉敷芸術科学大学 生命科学部 健康科学科 [定員減] (△5) (平成30年4月)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数					
	看護学研究科 看護学専攻	講義	演習	実験・実習	計	30単位					
教員の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等		
	新設	看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
		計			11人 (11)	4人 (4)	4人 (4)	1人 (1)	20人 (20)	0人 (0)	42人 (42)
	既設	薬学研究科 薬学専攻 (博士課程)			10 (10)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0人 (0)	0人 (0)
		薬学研究科 薬科学専攻 (博士課程 (後期))			5 (5)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	10 (10)	0人 (0)	0人 (0)
		薬学研究科 薬科学専攻 (修士課程)			19 (19)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	26 (26)	0人 (0)	0人 (0)
		危機管理学研究科 危機管理学専攻 (博士課程 (後期))			13 (13)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	17 (17)	0人 (0)	3人 (3)
		危機管理学研究科 危機管理学専攻 (修士課程)			17 (17)	1 (1)	7 (7)	0 (0)	25 (25)	0人 (0)	0人 (0)
		計			36 (36)	5 (5)	10 (10)	0 (0)	51 (51)	0人 (0)	— (—)
	合計			47 (47)	9 (9)	15 (15)	2 (2)	73 (73)	0人 (0)	— (—)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		54 人 (54)	2 人 (2)	56 人 (56)					
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)	0 (0)	2 (2)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	3 (3)	3 (3)					
	計		56 人 (56)	5 人 (5)	61 人 (61)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	マリーナキャンパス 借用面積： 98,395.12㎡ 借用期間：30年間 マリーナキャンパス前駐車場 借用面積： 9,038.71㎡ 借用期間：23年間				
	校 舎 敷 地	91,883 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	91,883 ㎡					
	運 動 場 用 地	19,478 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	19,478 ㎡					
	小 計	111,361 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	111,361 ㎡					
	そ の 他	19,977 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	19,977 ㎡					
	合 計	131,338 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	131,338 ㎡					
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体					
	37,148.66 ㎡ (37,148.66 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	37,148.66 ㎡ (37,148.66 ㎡)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	31 室	75 室	182 室	2 室 (補助職員0人)	1 室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数						
	看護学研究科看護学専攻（修士課程）			22 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分を含む 図書：14,789 〔1,250〕 学術雑誌：78 〔12〕 電子ジャーナル：14〔14〕		
	看護学研究科 看護学専攻	23,933〔6,016〕 (23,933〔6,016〕)	115〔19〕 (115〔19〕)	18〔18〕 (18〔18〕)	347 (347)	928 (928)	0 (0)			
	計	23,846〔6,016〕 (23,846〔6,016〕)	115〔19〕 (115〔19〕)	18〔18〕 (18〔18〕)	347 (347)	928 (928)	0 (0)			
図 書 館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数					
	1,872.06 ㎡		417席		103,000冊					
体 育 館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
	2,390.27 ㎡		テニスコート2面							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	研究費・共同研究費・図書購入費・設備購入費は研究科単位での算出不能なため、学部との合計 図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。
		教員1人当り研究費等		459千円	459千円	—	—	—	—	
		共同研究費等		17,750千円	18,350千円	—	—	—	—	
		図書購入費	2,500千円	3,500千円	3,500千円	—	—	—	—	
		設備購入費	0千円	15,000千円	15,000千円	—	—	—	—	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,180千円	980千円	—千円	—千円	—千円	—千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			雑収入等							

材質理学専攻 博士課程（後期）	3	9	—	27	博士（理学）	0.11	昭和53年度	
工学研究科								
応用化学専攻 修士課程	2	13	—	26	修士（工学）	0.18	平成2年度	
機械システム工学専攻 修士課程	2	13	—	26	修士（工学）	0.61	平成2年度	
電子工学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士（工学）	0.43	平成2年度	
情報工学専攻 修士課程	2	10	—	20	修士（工学）	0.35	平成8年度	
知能機械工学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士（工学）	0.81	平成21年度	
生体医工学専攻 修士課程	2	6	—	12	修士（工学）	0.58	平成23年度	
建築学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士（工学）	0.62	平成23年度	
システム科学専攻 博士課程（後期）	3	5	—	15	博士（工学）	0.46	平成2年度	
総合情報研究科								
情報科学専攻 修士課程	2	7	—	14	修士（総合情報）	0.21	平成13年度	
社会情報専攻 修士課程	2	6	—	12	修士（総合情報）	0.74	平成13年度	
数理・環境システム専攻 博士課程（後期）	3	2	—	6	博士（学術）	0.16	平成15年度	
生物地球科学研究科								
生物地球科学専攻 修士課程	2	12	—	24	修士（理学）	0.70	平成28年度	
岡山理科大学								
理学部						1.07		
応用数学科	4	110	—	395	学士（理学）	1.11	昭和39年度	平成29年度入学生定員増（15人）
化学科	4	75	—	285	学士（理学）	1.05	昭和39年度	平成29年度入学生定員増（5人）
応用物理学科	4				学士（理学）		昭和41年度	
物理科学専攻	4	45	—	145	学士（理学）	0.92	平成14年度	平成29年度入学生定員増（5人）
臨床工学専攻	4	30	—	140	学士（理学）		平成14年度	平成27年度入学生定員減（△10人）
基礎理学科	4	90	—	315	学士（理学）	1.08	昭和50年度	平成29年度入学生定員増（15人）
生物化学科	4	95	—	350	学士（理学）	1.11	昭和63年度	平成29年度入学生定員増（10人）
臨床生命科学科	4	95	—	350	学士（理学）	1.08	平成16年度	平成29年度入学生定員増（10人）
動物学科	4	45	—	165	学士（理学）	1.11	平成20年度	平成29年度入学生定員増（5人）
工学部						1.07		
バイオ・応用化学科	4	85	—	310	学士（工学）	1.05	昭和61年度	平成29年度入学生定員増（10人）
機械システム工学科	4	90	—	345	学士（工学）	1.07	昭和61年度	平成29年度入学生定員増（5人）
電気電子システム学科	4	70	—	280	学士（工学）	1.07	昭和61年度	
情報工学科	4	95	—	350	学士（工学）	1.12	平成4年度	平成29年度入学生定員増（10人）
知能機械工学科	4	55	—	220	学士（工学）	1.04	平成17年度	
生命医療工学科	4	60	—	240	学士（工学）	0.95	平成19年度	
3年次								
建築学科	4	75	5	295	学士（工学）	1.13	平成23年度	平成29年度入学生定員増（5人）

総合情報学部 情報科学科 社会情報学科	4 4	100 —	— —	340 —	学士（総合情報学） 学士（総合情報学）	1.14 1.14 —	平成9年度 平成9年度		平成29年度入学定員増（20人） 平成29年度より学生募集停止
生物地球学部 生物地球学科	4	140	—	500	学士（理学）	1.12 1.12	平成24年度		平成29年度入学定員増（20人）
教育学部 初等教育学科 中等教育学科	4 4	70 60	— —	140 120	学士（教育学） 学士（教育学）	1.05 1.10 1.00	平成28年度 平成28年度		平成28年度より開設 平成28年度より開設
経営学部 経営学科	4	130	—	130	学士（経営学）	1.10 1.10	平成29年度		平成29年度より開設
大 学 の 名 称 倉敷芸術科学大学									
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍		岡山県倉敷市 連島町西之浦2640	
倉敷芸術科学大学大学院 芸術研究科 美術専攻 修士課程 芸術制作表現専攻 博士（後期）課程	2 3	10 4	— —	20 12	修士（芸術） 博士（芸術）	0.30 0.25	平成11年度 平成13年度		
産業科学技術研究科 計算機科学専攻 修士課程 博士（後期）課程 機能物質化学専攻 修士課程 博士（後期）課程	2 3 2 3	— — 8 2	— — — —	— — 16 6	修士（産業科学技術） 博士（工学） 修士（産業科学技術） 博士（工学）	— — 0.31 0.00	平成11年度 平成13年度 平成11年度 平成13年度		平成29年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止
人間文化研究科 人間文化専攻 修士課程	2	15	—	30	修士（学術）	0.19	平成11年度		
大学院（通信制） 芸術研究科 美術専攻（通信制） 修士課程	2	10	—	20	修士（芸術）	0.05	平成14年度		
産業科学技術研究科 機能物質化学専攻（通信制） 修士課程	2	20	—	40	修士（産業科学技術）	0.00	平成14年度		
人間文化研究科 人間文化専攻（通信制） 修士課程	2	30	—	60	修士（学術）	0.04	平成14年度		

倉敷芸術科学大学 芸術学部							0.81			
			3年次							
	メディア映像学科	4	50	2	204	学士(芸術)	0.95	平成16年度		平成26年度入学生定員増(15人)
	デザイン芸術学科	4	55	—	220	学士(芸術)	0.68	平成20年度		平成26年度入学生定員増(20人)
	産業科学技術学部						—			
				3年次						
	経営情報学科	4	—	—	—	学士(産業科学技術)	—	平成23年度		平成29年度より学生募集停止 平成29年度より3年次編入学生募集停止
	観光学科	4	—	—	—	学士(産業科学技術)	—	平成20年度		平成26年度より学生募集停止
	生命科学部						0.91			
	生命科学科	4	50	—	200	学士(生命科学)	0.93	平成16年度		平成26年度入学生定員増(5人)
	健康科学科	4				学士(健康科学)		平成16年度		平成26年度入学生定員増(30人)
	健康科学専攻	4	55	—	220	学士(健康科学)	0.84	平成26年度		
	鍼灸専攻	4	30	—	120	学士(健康科学)		平成26年度		
				3年次						
	動物生命科学科	4	60	2	244	学士(生命科学)	0.81	平成18年度		平成26年度入学生定員減(△5人)
	生命医科学科	4	50	—	200	学士(生命科学)	1.12	平成20年度		
	健康医療学科	4	—	—	—	学士(健康科学)	—	平成23年度		平成26年度より学生募集停止
危機管理学部						0.74				
危機管理学科	4	90	—	90	学士(危機管理)	0.74	平成29年度		平成29年度より開設	
附属施設の概要	<p>薬草園 施設場所 千葉県銚子市潮見町15番8(本学敷地内) 面積 総面積 500 m² 目的 薬学教育の基礎としての薬草の生態観察、研究観察、研究材料の栽培等を行う。 概要 薬草園には温室と野外植物園を設置する。前者には、熱帯薬用植物を栽培し、後者は野外植物を栽培する。</p>									

教育課程等の概要															
(看護学研究科 看護学専攻修士課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
地域健康基礎科目	コミュニティ政策論	1前		1		○									兼1
	医療経済・経営論	1前		1		○									兼1 ※演習
	医療政策論	1後		1		○									兼1
	医療危機管理論	1・2後		2		○									兼2 オムニバス
	健康危機管理論	1・2前		2		○									兼1
	小計（5科目）	—	0	7		—			0	0	0	0	0	0	兼6
共通科目	高度看護実践基礎科目														
	実践看護理論	1前		2		○			1						※演習
	実践看護研究概論	1前	2			○			1						※演習
	実践看護研究方法論Ⅰ（量的研究）	1後		2		○									兼1
	実践看護研究方法論Ⅱ（質的研究）	1後		2		○									兼1 ※演習
	文献検討	1前		2		○			1						オムニバス ※演習
	実践看護倫理学	1前		2		○									兼1
	看護政策論	1後		2			○								兼2 オムニバス・ 共同（一部） ※講義
	実践看護管理論	1後		2		○									兼1 ※演習
	コンサルテーション論	1前		2		○									兼2 オムニバス ※演習
	実践看護学教育の理論と方法	1前	2				○								兼2 オムニバス ※講義
	フィジカルアセスメント	1前		2		○									兼4 オムニバス ※演習
臨床薬理学	1後		2		○									兼2 オムニバス ※演習	
病態生理学	1後		2		○									兼2 オムニバス ※演習	
	小計（13科目）	—	4	22		—			2	0	0	0	0	0	兼19
専門科目	地域生活支援分野看護学特論Ⅰ（リハビリテーション看護学特論）	1前		2		○			1						兼1 オムニバス
	地域生活支援分野看護学特論Ⅱ（精神看護学特論）	1前		2		○			1						
	地域生活支援分野看護学特論Ⅲ（がん看護学特論）	1前		2		○			1						※演習
	地域生活支援分野看護学特論Ⅳ（エンド・オブ・ライフケア看護学特論）	1前		2		○			1						※演習
	地域生活支援分野看護学特論Ⅴ（広域看護学特論）	1前		2		○			2	1					兼2 オムニバス・ 共同（一部） ※演習
	地域生活支援分野看護学特別演習Ⅰ（リハビリテーション看護学特別演習）	1後		2			○		2			1			兼1 オムニバス・ 共同（一部）
	地域生活支援分野看護学特別演習Ⅱ（精神看護学特別演習）	1後		2			○		1	1					兼1 オムニバス・ 共同（一部） ※講義
	地域生活支援分野看護学特別演習Ⅲ（がん看護学特別演習）	1後		2			○		1		1				オムニバス・ 共同（一部）
	地域生活支援分野看護学特別演習Ⅳ（エンド・オブ・ライフケア看護学特別演習）	1後		2			○		1						兼1 オムニバス
	地域生活支援分野看護学特別演習Ⅴ（広域看護学特別演習）	1後		2			○		2	1					兼1 オムニバス・ 共同（一部）
	地域生活支援分野看護学実習Ⅰ（実践）	1後・2前		2				○	6	2	1				
	地域生活支援分野看護学実習Ⅱ（教育）	1後・2前		2				○	6	2	1				
	地域生活支援分野看護学特別研究	1～2通		8				○	6						
	地域生活支援分野看護学実践特別研究	1～2通		8				○	6						
	小計（14科目）	—	0	40		—			6	2	1	1	0	0	兼5

専 門 科 目	育 成 分 野 看 護 学	育成分野看護学特論Ⅰ（小児看護学特論Ⅰ）	1前	2	○			1	1	1				オムニバス・ 共同（一部） ※演習
		育成分野看護学特論Ⅱ（小児看護学特論Ⅱ）	1前	2	○			1	1	1				オムニバス・ 共同（一部） ※演習
		育成分野看護学特論Ⅲ（小児看護学特論Ⅲ）	1前	2	○			1	1	1				オムニバス・ 共同（一部） ※演習
		育成分野看護学特論Ⅳ（小児看護学特論Ⅳ）	1前	2	○			1	1	1			兼2	オムニバス・ 共同（一部） ※演習
		育成分野看護学特論Ⅴ（小児看護学特論Ⅴ）	1後	2	○			1	1	1			兼3	オムニバス・ 共同（一部） ※演習
		育成分野看護学特論Ⅵ（小児看護学特論Ⅵ）	1後	2	○			1	1	1			兼3	オムニバス・ 共同（一部） ※演習
		育成分野看護学特論Ⅶ（母性看護学特論）	1前	2	○			2						オムニバス・ 共同（一部）
		育成分野看護学特別演習Ⅰ（小児看護学特別演習Ⅰ）	1前	2	○			1	1	1				オムニバス・ 共同（一部）
		育成分野看護学特別演習Ⅱ（小児看護学特別演習Ⅱ）	1後	2	○			1	1	1			兼3	オムニバス・ 共同（一部）
		育成分野看護学特別演習Ⅲ（小児看護学特別演習Ⅲ）	1後	1	○			1	1	1			兼1	オムニバス・ 共同（一部）
		育成分野看護学特別演習Ⅳ（小児看護学特別演習Ⅳ）	2前	1	○			1	1	1				共同 ※講義
		育成分野看護学特別演習Ⅴ（母性看護学特別演習）	1後	2	○			2						共同
		育成分野看護学実習Ⅰ（実践）	1後・2前	2		○		3	1	1				
		育成分野看護学実習Ⅱ（教育）	1後・2前	2		○		3	1	1				
		育成分野看護学課題実習Ⅰ	1後	2		○		1	1	1				兼1
		育成分野看護学課題実習Ⅱ	2前	4		○		1	1	1				
		育成分野看護学課題実習Ⅲ	2後	4		○		1	1	1				
		育成分野看護学特別研究	1～2通	8		○		3	1	1				
		育成分野看護学実践特別研究	1～2通	8		○		3	1	1				
		育成分野看護学課題研究	2通	2		○		1	1	1				
小計（20科目）	—	0	54		—	3	1	1	0	0	兼11			
危 機 管 理 分 野 看 護 学	危機管理分野看護学特論Ⅰ（災害看護学特論）	1前	2	○			1	1				兼1	オムニバス ※演習	
	危機管理分野看護学特論Ⅱ（リスクマネジメント看護学特論）	1前	2	○			1	1				兼1	オムニバス・ 共同（一部）	
	危機管理分野看護学特別演習Ⅰ（災害看護学特別演習）	1後	2	○			1	3	2			兼1	オムニバス・ 共同（一部） ※講義	
	危機管理分野看護学特別演習Ⅱ（リスクマネジメント看護学特別演習）	1後	2	○			1							
	危機管理分野看護学実習Ⅰ（実践）	1後・2前	2		○		2	1	2					
	危機管理分野看護学実習Ⅱ（教育）	1後・2前	2		○		2	1	2					
	危機管理分野看護学特別研究	1～2通	8		○		2	1						
	危機管理分野看護学実践特別研究	1～2通	8		○		2	1						
小計（8科目）	—	0	28		—	2	3	2	0	0	兼2			
合計（60科目）		—	4	151		—	11	4	4	1	0	兼42		
学位又は称号	修士（看護学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>共通科目の地域健康基礎科目から2単位以上、高度看護実践基礎科目から必修科目を含め8単位以上、専門科目の各分野から自分の追及する課題と密に関わる分野の特論と当該特論の特別演習のセット2科目及び、同分野の実習2科目に加え特別研究もしくは実践特別研究の何れか1科目を含む20単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該修士課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>ただし、小児専門看護師の資格を得ようとする者は共通科目の地域健康基礎科目から2単位以上、高度看護実践基礎科目のうち必修科目に加え、「フィジカルアセスメント」「臨床薬理学」「病態生理学」の3科目、「実践看護理論」「実践看護倫理学」「看護政策論」「実践看護管理論」「コンサルテーション論」「実践看護学教育の理論と方法」の6科目のうち3科目以上、「育成分野看護学特論Ⅱ～Ⅵ（小児看護学特論Ⅱ～Ⅵ）」、「育成分野看護学特別演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（小児看護学特別演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）」、「育成分野看護学課題実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」及び「育成分野看護学課題研究」を履修すること。</p>	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	15週
	1 時限の授業時間	90分

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科 看護学専攻修士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域健康基礎科目 共通科目	コミュニティ政策論	従来、公共＝政府と考えられてきた。しかし、市民生活や地域から見るとこれは違う。政府だけでなく、地域コミュニティ及びNPO・企業も公共を担っているからである。本講義は、こうした公共領域と担い手の広がりに対応した新たなコミュニティ政策論を考えるものである。検討の対象とするのは、主として地方政府と、地域コミュニティ、NPOである。それぞれの意義・役割・課題とともに、公共セクター間関係ともいうべき両者のパートナーシップについてもふれる。また、政策論は、実際に社会変革につながるものでなければならない。そこで、期待が大きい割には資源・権限とも脆弱な自治体・NPO等をエンパワーするという観点から、そのための施策、手法等についても論じることとする。	
	医療経済・経営論	医療における経済的観点と病院経営についての基本的な考え方を検討する。経済的観点・経営の基本として、病院を経営する視点から、とりわけ、収入と直結する診療報酬ならびに、病院における収益の考え方を検討し、今後の医療政策へ言及する。本授業を通して、看護の実践の場で指導的立場を担うものにとって必要な、医療における経済的観点と病院経営に関して理解を深める。	講義：26時間 演習：4時間
	医療政策論	人口動態や社会経済環境が大きく変化する中で、医療保険制度と医療提供体制の両面において、医療政策の見直しが図られている。医療政策の基本的な構造やこれまでの歴史的な変遷、最近の医療制度改革の具体的な内容などについて講義する。	
	医療危機管理論	本講義では、医療事故の発生を未然に防ぎ、患者が安心して安全な医療を受けられることを目指し、生命倫理を含む医の倫理を解説した後、頻発する医療事故を分析し、その医療現場と医療をとりまく環境の関わりを講義する。また、臨床検査学に立脚した院内感染防止の中心として標準予防策や感染経路予防対策について教授し、医療情報管理対策としては医療情報システム、医療情報の特性、医療情報の安全管理について教授する。さらに、事故の発生する背景や要因を明らかにすることにより医療事故防止のため安全管理と安全を確保するためのリスク評価について教授する。 <オムニバス方式/全15回> (23 黒木 尚長/8回) 黒木は、責任教員として本授業を包括的に運営していく。そのため、初回授業において本授業のねらいを明らかにしていく。さらに、医の倫理、医療事故予防概論、医療安全管理、院内感染防止、院内感染対策の実際としての病原微生物の性状と感染経路対策について教授する。 (28 松村 聡/7回) 院内感染対策の実際として院内感染制御とICT、院内感染制御とリスク評価、医療情報システムと特性、医療情報と病院管理、医療情報の安全管理、医療情報の倫理、医療情報管理とリスク評価について教授する。	オムニバス方式
	健康危機管理論	健康とは何か、健康を保持するための科学とは何かを解説し、自然環境、社会環境と疾患との関係について教授する。また健康管理と臨床検査の関係、生活習慣病の予防とそのための臨床検査法および特定健診について考察し、健康診断の有効性を解説する。また健康のリスク評価のための種々の検査法について解説する。さらに新たな臨床検査法の研究・開発について紹介する。	
高度看護実践基礎科目	実践看護理論	理論の概念、定義、構成要素、守備範囲や評価に関する理解を基礎に、看護理論および看護学の周辺理論について、その背景、特徴や主要点を吟味し、理論の内容をクリティークする。 この過程を通し、看護理論、周辺理論を体系的に理解する。また、理論のクリティーク方法、および看護の実践・教育・研究に理論を活用するための具体的な方法について教授する。 これらの教授内容を基に、自分の看護の考え方を整理・検討し、学生自らの看護モデル構築へと探究する。	講義：16時間 演習：14時間

共通科目 高度看護実践基礎科目	実践看護研究概論	学部での研究科目習得レベルを踏まえ、より高度な看護ケアの実践上および教育上の課題を解決するために、看護研究に求められている実践的研究の知識および方法論・技法を教授する。 また、看護研究の目的、研究プロセス、研究計画や研究方法の基礎、ケアの質改善のための研究、研究結果の発表についても教授する。	講義：28時間 演習：2時間
	実践看護研究方法論Ⅰ（量的研究）	看護研究における量的研究の目的・方法を教授すると共に、具体的手法としての統計手法の理論・考え方、統計ソフトを使用している結果の算出方法を教授する。更に、量的研究論文のクリティックにも言及する。	
	実践看護研究方法論Ⅱ（質的研究）	本科目の目的は、看護分野において質的研究を実施するための基礎知識・技法を身に付けてもらうことにある。そのため先ず質的研究の一連のプロセスを学び、続いていくつかの代表的な研究方法を詳しくみていく。さらに、インタビュー、（参与）観察といった基本的な技法を演習形式で体得する。また、データ分析についても、実際に行われた研究プロジェクトのトランスクリプトを用いてコーディングやカテゴリー化の演習にあたってもらう。尚、本科目は質的調査法を用いた文献を理解・評価するうえでも有益である。	講義：23時間 演習：7時間
	文献検討	修士論文の研究計画と執筆、ならびに科学的根拠に基づいた実践（evidence-based practice：EBP）に不可欠な文献検討について、基本的知識と基本的スキルを教授する。 <オムニバス方式/全15回> (2 前田 和子/11回) 本科目の意義と到達目標、授業計画を説明した上で、文献検討の定義、研究やEBPとの関連性、エビデンス・ヒエラルキー、論文の種類とエビデンス評価、文献の批判的読み方、文献の統合、文献検討結果の執筆について、教授する。 (34 富田 美加/4回) 看護研究および周辺学問領域における文献データベースの種類と特徴、データベースの検索方法、検索した文献の整理方法について情報テクノロジーの活用も含めて教授する。	オムニバス方式 講義：17時間 演習：13時間
	実践看護倫理学	本授業は、CNSの倫理調整の基盤となるような倫理的な看護実践に必要な知識や諸概念を学び、患者や患者家族の人権擁護、知る権利、QOLの向上などの側面から、看護実践における倫理とは何かを探究することを目的とする。看護実践の倫理を考えるための諸概念についての講義、倫理を考えるためのアプローチとして、原則に基づくアプローチ、系統的なアプローチ、ナラティブ・アプローチを事例や教材用DVDを活用し、具体的に学んでいく。事例検討の際は、グループワークなどを行う。	
	看護政策論	政策は提案の過程そのものである。政策が作られた過去の事例についてどのような問題があったのか、そしてなぜその提案がなされたのか社会情勢を考察し、政策の連続性の中で、現在、課題となっていることに対してどのような提案をしていくべきか考察する。 <オムニバス方式/全15回> (36 野村 陽子/2回) 看護政策の基礎と政策決定プロセスについて教授する。 (37 石橋 みゆき/2回) 保健・医療・福祉政策の動向と看護職による政策活動の実際について教授する。 (36 野村 陽子・37 石橋 みゆき/11回) (共同) 政策の立案から発展の過程、政策決定過程、政治の中で見えてくる政策決定について教授すると共に、これらをストーリーとしてまとめ、現状の課題と自己の意見を提案できるように教授する。	オムニバス方式・共同(一部) 講義：8時間 演習：22時間
	実践看護管理論	看護管理の研究に基づいた理論、技術を学ぶことにより、問題解決思考をもつ看護管理者、あるいは保健医療福祉に携わる人々間の調整や看護管理者と協力できる高度実践看護師に必要な役割を考察する。	講義：26時間 演習：4時間

共通科目	高度看護実践基礎科目	<p>コンサルテーション論</p> <p>看護実践で行うコンサルテーションに関する理論を踏まえて、高度実践看護職が必要とするコンサルテーション・スキルと役割について検討する。</p> <p><オムニバス方式/全15回> (39 永井 優子/11回) コンサルテーションに関する理論として、定義・コンサルテーションのタイプ等について教授すると共に、コンサルテーションにおける課題として隠された力とプロセス・集団のプロセス等について教授する。</p> <p>(40 江波戸 和子/1回) 専門看護師によるコンサルテーションの実際と課題について教授する。</p> <p>(39 永井 優子・40 江波戸 和子/3回) (共同) コンサルテーションの事例をもとに、履修生にコンサルテーションの実際を教授し、コンサルテーションを行なう上での重要な態度・スキルについて、各自の課題の明確化が図れるように教授する。</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p> <p>講義：24時間 演習：6時間</p>
		<p>実践看護学教育の理論と方法</p> <p>自らの学びの経験を振り返り、人が学ぶとはどういうことかを問うことを通して、高度看護実践者として教育的機能を果たすために必要となる看護学教育に関する基本的な知識を学び、高度看護実践者が果たすべき教育的役割について考察を深める。</p> <p>授業内に自分自身で看護に関する授業テーマを決め、そのテーマに基づいた授業をデザインし、(模擬授業の形式を取って)実施し、クラスメイト他からフィードバックをもらう。最終的にそれらの情報をもとに、再度修正指導案を作成し、提出する。まとめのレポートも作成し、提出する。</p> <p><オムニバス方式/全23回> (41 堀田 佐知子/8回) 本授業のねらい、ならびに教育の意義・概念、看護教育制度、看護教育における方法と学習理論、授業の考え方と学習形態、看護教育における倫理、看護継続教育、高度看護実践者としての教育的かわりについて教授する。</p> <p>(42 新保 幸洋/15回) 授業デザインの6つの下位概念である「学習者の実態把握」「学習目標」「教育評価方法」「教材研究」「教授方略」「学習環境・条件」について教授すると共に、学習指導案の目的・意義・良い学習指導案の条件について教授する。加えて模擬授業が行なえるように教授し、模擬授業の振り返りを通して、各自の課題の明確化が図れるように教授する。</p>	<p>オムニバス方式</p> <p>講義：20時間 演習：25時間</p>
		<p>フィジカルアセスメント</p> <p>高度な看護判断を必要とする対象者の全身の身体状況を系統的に診査し、的確な臨床看護判断を行うために必要な知識・思考と技術を教授する。</p> <p><オムニバス方式/全23回> (25伊良部徳次/15回) 全身のフィジカルアセスメントの実際と臨床判断、身体異常所見の判断について教授すると共に、急変時のフィジカルアセスメント、呼吸器系・循環器系・消化器系・腎・泌尿器系・感覚器系・神経系・筋肉系・骨格器系のフィジカルアセスメント、乳幼児のフィジカルアセスメントについて教授する。</p> <p>(43 田中 裕二/3回) 高度実践看護師にとって必要なフィジカルアセスメントの意義、ならびにフィジカルアセスメントに基づいた臨床看護判断について教授する。</p> <p>(44 比田井 理恵/4回) 臨床現場におけるフィジカルアセスメントの実際として、救急医療場面・ベッドサイドでの場面、複雑な健康問題を持つ事例等を提示して臨床看護判断を教授する。</p> <p>(45 河野 伸子/1回) 精神機能のアセスメントについて教授する。</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p> <p>講義：30時間 演習：15時間</p>

共通科目	高度看護実践基礎科目	臨床薬理学	<p>薬剤と生体との相互作用および、薬剤の基本的な作用機序を理解し、急性期や慢性疾患の患者、妊婦・授乳中の女性、小児から高齢者まで、各対象別に処方されている薬剤についての症状調整や薬物の使用・中止の判断、慢性疾患管理、服薬管理能力を高めるための指導に必要な基礎的知識を教授する。さらに、薬物治療を受けながら療養している複雑で治療が困難な状況にある患者の生活調整や症状緩和、モニタリングおよび疾病の回復への支援について教授する。</p> <p><オムニバス方式/全15回> (26 森 雅博/13回) 臨床薬理学の基礎、薬物と生体の相互作用、薬剤の処方・変更における判断過程、慢性疾患・在宅療養者に投与されることの多い薬剤について、主な薬剤の作用機序・副反応・投与方法・薬剤効果について教授する。さらに、薬物の使用判断、特殊な条件下にある事例提示を行い、その服薬使用の特徴について教授し、治療薬のモニタリングと評価、服薬使用の留意点について教授する。加えて、服薬の製剤・調剤・保管、変質の管理、服薬指導が必要な事例を提示し服薬指導のアセスメントならびに自己管理に向けての指導について教授する。</p> <p>(47 赤瀬 智子/2回) 高度実践看護師に必要な薬理学の考え方について教授すると共に、薬物療法を受けながら療養している患者の症状調整、モニタリング、および疾病の回復への支援を教授する。</p>	<p>講義：25時間 演習：5時間</p>
		病態生理学	<p>エビデンスに基づいた臨床看護判断を行うために、病態の成因を細胞、組織、遺伝子レベルから学習し、対象の全身にわたる病態生理学的变化を解釈する知識を教授する。さらに先天性異常・循環器疾患・炎症・腫瘍など領域別による疾患や障害の成因を理解し、臨床看護判断を行うために必要な診断や治療方針について教授する。学習した病態生理の知識を活用し、エビデンスに基づいた臨床看護判断能力を養うための技法を教授する。</p> <p><オムニバス方式/全15回> (27 照井 祐介/12回) 病態生理学を系統的に教授するために、代謝障害、呼吸器障害、感染症と免疫、泌尿器系障害、血液・造血器疾患、循環器障害、神経障害、消化器疾患、運動器障害、先天性異常と遺伝子異常について教授する。</p> <p>(48 岡田 忍/3回) エビデンスに基づく臨床看護判断を培うための病態生理学について教授すると共に、病態生理を活用した診断・治療の実際ならびに看護を教授し、さらに事例を用いて具体的なエビデンスに基づく臨床看護判断について教授する。</p>	<p>講義：28時間 演習：2時間</p>

専 門 科 目 地 域 生 活 支 援 分 野 看 護 学	地域生活支援分野看護学特論Ⅰ（リハビリテーション看護学特論）	<p>リハビリテーション看護の対象は地域生活者であることを前提として、医療社会福祉分野のリハビリテーションを要する人々とその家族である。</p> <p>本科目は、対象の理解、健康問題への解決方法ならびに支援の修得にあたり、対象を取り巻く環境および歴史の変遷、各分野、諸外国および日本の障害福祉制度の変革を概観するとともに加齢や障害によって生じた身体および生活への影響の評価、障害受容への支援、チーム連携、生活再構築に向けての看護の方法、リスク管理などの必要な諸理論について教授する。</p> <p><オムニバス方式/15回> (3 長島 緑/13回)</p> <p>長島は、責任教員として本授業を包括的に運営していく。そのために、初回授業において本授業のねらい、評価を説明し、リハビリテーション変遷・世界の動向と日本の課題、チームアプローチ・他職種連携、実践と理論として障害受容プロセス、変化（変容）ステージモデルを教授する。地域生活者の今日的課題・解決方法・研究方法として、高齢者と生活障害（加齢・老化）と高次脳機能障害者を取り上げ、生活障害と介護負担の分析、解決方法・研究方法として機能性尿失禁のケアプログラムについて教授する。評価及び尺度ではQOL評価・うつ評価・肺機能評価・心機能評価・運動能力評価・ADL尺度・栄養評価・嚥下機能評価・重症度評価・認知機能評価を教授する。さらに障害とリスク予防では訓練中止・再開評価・廃用症候・転倒・転落・離棟における予防を教授する。</p> <p>(49 奥宮 暁子/2回)</p> <p>リハビリテーション看護実践における主要概念では、障害の概念、ICF概念について教授し、リハビリテーション看護実践と理論ではセルフケア概念・理論、エンパワメントアプローチ、社会的学習理論（自己効力）を主に教授する。</p>	オムニバス方式
	地域生活支援分野看護学特論Ⅱ（精神看護学特論）	<p>地域生活者としての精神看護の対象を理解し、健康問題への解決方法ならびに支援方法の修得にあたり、取り巻く環境の歴史の変遷、諸理論を教授すると共に、精神の健康生活状態の評価について教授し、地域生活支援における精神看護の課題を探究する。</p>	
	地域生活支援分野看護学特論Ⅲ（がん看護学特論）	<p>がん看護に必要な、病態生理や疫学を踏まえて、がん特有の治療を完遂するための援助方法について教授する。さらにがん患者（がんサバイバー）とその家族を支援するための理論や社会システムについて教授する。</p> <p>これらを通して、我が国のがん医療や必要とされる看護に対して自身の提言ができるように教授する。</p>	講義：18時間 演習：12時間
	地域生活支援分野看護学特論Ⅳ（エンド・オブ・ライフケア看護学特論）	<p>診断名、健康状態、年齢にかかわらず、差し迫った死、あるいはいつか来る死について考える人が、生が終わる時まで最善の生を生きることができるように支援するための基盤となる考え方や理論、制度について教授する。それによりエンドオブライフケアに関する専門的知識の深化拡大をはかり、対象となる人々の価値観を理解しつつ、エビデンスに基づいた看護の探究をはかる。</p>	講義：18時間 演習：12時間

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">地域生活支援分野看護学 専門科目</p>	<p>地域生活支援分野看護学特論Ⅴ（広域看護学特論）</p>	<p>広域を対象とした公衆衛生看護および在宅看護における今日的課題を教授すると共に、個人・家族および地域の集団に対する健康問題への解決方法・支援方法を修得するために、対象および看護支援に関連する諸理論、制度の歴史的変遷、看護の質評価について教授する。</p> <p><オムニバス方式/全15回> (6 安藤 智子/5回) 公衆衛生の基本的な理念であるヘルスプロモーションとその実践手法であるプリシード・プロシードモデル、参加型アクションリサーチ（CBPR）理論について教授する。さらに健康危機のひとつとして高齢者虐待を取り上げ、予防と支援の実際を教授する。地域保健活動の評価方法について教授する。</p> <p>④ 原 美弥子/4回) 地域診断に必要な理論であるコミュニティアズパートナーモデルについて教授する。さらに内部障害者の在宅療養支援として外来における心臓リハビリテーションの実際を教授すると共に広域看護における家族介護の評価ならびに訪問看護の評価に関して教授する。</p> <p>(50 大塚 真理子/1回) 効果的な多職種協働を可能にする専門職連携実践（IPW）と専門職連携教育（IPE）の手法について教授する。</p> <p>(51 竹村 華織/1回) 家族看護に必要な理論である二重ABC-Xモデルの背景と概要、その特徴と限界について教授する。</p> <p>(6 安藤 智子・④ 原 美弥子/3回) (共同) 広域看護を構成する在宅看護学と公衆衛生看護学の基盤となる制度やシステム、対象の特性に関して、原は在宅看護学の立場から、安藤は公衆衛生看護学の立場から教授し、各自の課題を討論により整理する。</p> <p>(6 安藤 智子・④ 原 美弥子・12 岩瀬 靖子/1回) (共同) 授業で学んだ今日的課題を発表し、今後の方向性について討論する。</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部) 講義：27時間 演習：3時間</p>
	<p>地域生活支援分野看護学特別演習Ⅰ（リハビリテーション看護学特別演習）</p>	<p>リハビリテーション看護を必要とする対象に対し、エビデンスに基づいてリハビリテーション看護を実践できるように、援助に関する理論の学修、リハビリテーション看護学に関する最近の国外の文献の論評を行い、障害のある人や加齢的な障害をきたした高齢者、その家族らの地域生活支援上の課題を明らかにし、研究方法・解決方法について教授する。</p> <p><オムニバス方式/全30回> (3 長島 緑/19回) 長島は、責任教員として本授業を包括的に運営していく。そのために、初回授業において本授業のねらい、評価を説明する。さらに、学生の興味・関心のあるテーマの明確化を図り、障害者および生活活動に支障のある高齢者の地域生活支援に関する今日的課題を明確化し、関連文献等より、今日的課題・研究方法の検討を行う。障害者および生活活動に支障のある高齢者の地域生活支援に関する今日的課題・研究方法の検討として、内部障害系、運動器の障害、排泄障害、神経系の障害、聴覚障害、視覚障害、言語障害、嚥下障害をとりあげ教授する。加えて、当該演習に関して統括を行う。</p> <p>(49 奥宮 暁子/5回) 障害者および生活活動に支障のある高齢者の地域生活支援をする上で、障害ならびに関連理論の概念と課題、リハビリテーション看護に関連する理論と実際としてエンパワメントアプローチ・社会的学習理論（自己効力）・変化(変容)ステージモデルについて教授する。</p> <p>(3 長島 緑・21 丹野 志保/4回) (共同) 障害者および生活活動に支障のある高齢者の地域生活支援をする上で、リハビリテーション看護に関連する理論においてセルフケア概念・理論、障害受容のプロセス、当事者の心理を教授する。</p> <p>(3 長島 緑・5 梶原 睦子/2回) (共同) 障害者および生活活動に支障のある高齢者の地域生活支援に関する今日的課題・研究方法の検討として「がん」を取り上げ教授する。</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>

専 門 科 目 地 域 生 活 支 援 分 野 看 護 学	地域生活支援分野看護学特別演習Ⅱ（精神看護学特別演習）	<p>エビデンスに基づいて精神看護を実践できるように、援助に関する理論を教授し、精神看護学に関する最近の国内外の文献の論評を行い、精神障害者の地域生活支援上の課題を明らかにし、研究方法・解決方法について追究する。</p> <p><オムニバス方式/全30回> (4 池邊 敏子/8回) 池邊は、責任教員として本授業を包括的に運営していく。そのために、初回授業において本授業のねらいを明らかにしていく。さらに精神障害者の地域生活支援に必要な理論であるストレスマネジメント・SST理論について教授すると共に、精神の健康状態の評価の実際を教授する。加えて、当該演習に関し総括を行なう。</p> <p>(52 松下 年子/4回) 精神障害者の地域生活支援に必要な理論である心理教育プログラム・リラクゼーションの理論と実際を教授する。</p> <p>(4 池邊 敏子・13 吉野 由美子/18回) (共同) 精神障害者の地域生活支援に関する今日的課題・研究方法・解決方法、精神障害者への地域生活支援の組織的取り組み・今日的課題を明確にし、地域生活支援における精神看護の改善・改革を教授する。加えて、地域生活支援として、看護学教育における啓蒙活動としての精神看護学の教育の実際を教授する。</p>	オムニバス方式・共同(一部) 講義：2時間 演習：58時間
	地域生活支援分野看護学特別演習Ⅲ（がん看護学特別演習）	<p>エビデンスに基づいたがん看護を実践するために、援助に関する理論を教授し、がん看護に関する最近の国内外の文献の論評を行い、がんサバイバーが遭遇する地域生活支援上の課題を明らかにし、その研究方法・解決方法・具体的実践方法について教授する。</p> <p><オムニバス方式/全30回> (5 梶原 睦子/18回) 梶原は、責任教員として本授業を包括的に運営していく。そのために、初回授業において本授業のねらいを明らかにしていく。さらに、がん看護に必要な技術の理論と実際において、栄養管理・口腔ケア等について教授し、がんサバイバーの地域生活支援に関する今日的課題・研究方法・解決方法についても教授する。加えて当該演習に関しての総括を行なう。</p> <p>(5 梶原 睦子・17 青木 君恵/12回) (共同) がんサバイバーの地域生活支援に関する今日的課題・研究方法・解決方法の中でも、症状コントロール・QOL・サバイバーシップについて教授すると共に、地域生活支援として、看護学教育における啓蒙活動としてのがん看護学教育の実際について教授する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	地域生活支援分野看護学特別演習Ⅳ（エンド・オブ・ライフケア看護学特別演習）	<p>対象のこれまでの生き方を尊重し、つつがない暮らしを守り、悔いなき終焉を迎えることができるよう支援をするためのエビデンスに基づいた方法論を探究する。すなわち各単元のテーマについて学生が自己の経験知や問題意識を言語化し、研究論文の講読と合わせて考察できるように教授する。</p> <p><オムニバス方式/全30回> (1 高橋 方子/28回) 初回の授業では本科目のオリエンテーションを実施する。次ががん、意識障害などエンドオブライフケアにおける意思決定の基盤となるそれぞれの状況を分析し、胃瘻の選択、治療の差し控えなどの意思決定場面のシナリオ作成、ロールプレイから意思決定に必要な具体的支援を考察する。加えて悔いなき終焉に向けての支援、つつがない暮らしの維持に向けての支援について文献検討を行い、意思決定支援のエビデンスを明らかにする。そしてこれまでの授業内容をふまえて事前指示およびバリュースヒストリーの必要性を討議する。さらに看取りの評価やエンドオブライフケアに対する組織的な取り組み、看護学生に対するデスエデュケーションについても文献検討を行い、総合的にエンドオブライフケアの方法論を探究する。</p> <p>(53 櫻井 智穂子/2回) 意思決定における対話のプロセスや患者と家族の決断の“ゆれ”を支える看護援助など意思決定支援やアドバンスケアプランニングの実際について教授する。</p>	オムニバス方式

地域生活支援分野看護学 専門科目	地域生活支援分野看護学特別演習Ⅴ（広域看護学特別演習）	<p>エビデンスに基づいて、個人・家族・グループ・集団・地域の健康問題・課題に対する看護支援が実践できるように、国内外の文献の論評を行い、課題を明らかにし、解決方法および研究方法を教授する。</p> <p><オムニバス方式/全30回> (6 安藤 智子・① 原 美弥子/1回) (共同) 初回授業では、本授業のねらいと方法を教授する。</p> <p>① 原 美弥子・51 竹村 華織/2回) (共同) 療養者とその家族の支援に必要な理論である二重ABC-Xモデルについて教授すると共に家族介入の実際を教授する。</p> <p>(6 安藤 智子・① 原 美弥子・12 岩瀬 靖子/27回) (共同) 個人、集団、地域を対象にした支援に関する理論と実践事例から今日的課題を明確にし、課題改善に向けた方向性を見出せるよう教授する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	地域生活支援分野看護学実習Ⅰ（実践）	地域生活支援分野看護学における自己の課題と密に関わる看護学特論ならびに当該特別演習の学修を基に、学生の研究課題解決に参考となるモデル施設において、実践への参加から解決方法を探究する。実践において、多職種連携・調整・コンサルテーションなどの技法を教授する。	
	地域生活支援分野看護学実習Ⅱ（教育）	「実践看護学教育の理論と方法」を基に、継続教育と連結する看護学基礎教育を学ぶ学士課程の理解、教育者としての自覚・意識の涵養、効率的な教育およびコーチングの方法を教授する。具体的には、当看護学科の関心ある講義科目、演習科目、実習科目を選択させ、指導教員の下で、看護学部生を対象に授業が行なえるように教授する。	
	地域生活支援分野看護学特別研究	<p>地域生活支援分野看護学において文献検討を経て院生が自ら研究課題を見つけ、方法論と方法を選択し、データを収集し、結果を分析、考察を経て修士論文執筆へと導く。この過程から学問をする態度、倫理、科学的思考を深め、学問による社会的貢献と、学問の意義を探究する。</p> <p>(1 高橋 方子) エンドオブライフケアにおける意思決定は対象者が自分らしい暮らしを人生の最期まで続けるための鍵であり、看護職は対象者および家族が向き合い納得して意思決定ができるよう支援する立場にある。エンドオブライフケアにおける意思決定支援および支援する看護師の役割や能力等について研究指導を行う。</p> <p>(3 長島 緑) 脳血管障害、認知症、認知障害や身体障害、内部障害、嚥下機能障害、機能性尿失禁などによる生活障害に対してセルフケアならびに自立生活を促進し、生活再構築プログラムの開発、リハビリテーション看護の教育方法を通じて地域で生活する障害者および生活障害のある高齢者への看護サービスの質向上を追究する研究を指導する。</p> <p>(4 池邊 敏子) 精神障害者のセルフケアならびに自立生活を促進し、地域で生活する精神障害者への看護サービスの質向上に寄与する援助を追究する研究を指導する。</p> <p>(5 梶原 睦子) がんの診断時からがんサバイバーにある時期、および終末期における患者本人とその家族の適応やセルフケア、問題解決法など看護の質向上に寄与する研究方法とその実際について指導する。</p> <p>(6 安藤 智子) 高齢者保健福祉分野において保健師が行う地域ケアシステム構築と評価、介護予防ケアマネジメントを通じた高齢者の健康増進・介護予防支援、高齢者虐待予防・支援における保健師の援助を追究する研究を指導する。</p> <p>① 原 美弥子) 地域高齢者および地域心臓病患者の心身の健康維持・向上と共に外来における心臓リハビリテーションプログラム開発に繋がる研究を指導する。</p>	

<p style="text-align: center;">地域生活支援分野看護学</p> <p style="text-align: center;">専門科目</p>	<p style="text-align: center;">地域生活支援分野看護学</p>	<p>地域生活支援分野看護学実践特別研究</p> <p>地域生活支援分野看護学に関連した現場の中で自ら選択する課題に焦点をあて、課題に関する最新の知識を収集し理解した上で、問題解決の方法論と方法を考究し、実践の結果を分析、考察して修士論文執筆へと導く。この過程から科学的根拠に基づいた実践を理解し、研究倫理、科学的思考を深め、現場の質改善への貢献を探究する。</p> <p>(1 高橋 方子) エンドオブライフケアにおける意思決定は対象者が自分らしい暮らしを人生の最期まで続けるための鍵であり、看護職は対象者および家族が向き合い納得して意思決定ができるよう支援する立場にある。エンドオブライフケアにおける意思決定支援および支援する看護師の役割や能力等について研究指導を行う。</p> <p>(3 長島 緑) 脳血管障害、認知症、認知障害や身体障害、内部障害、嚥下機能障害、機能的尿失禁などによる生活障害に対してセルフケアならびに自立生活を促進し、生活再構築プログラムの開発、リハビリテーション看護の教育方法を通じて地域で生活する障害者および生活障害のある高齢者への看護サービスの質向上に繋がる研究を指導する。</p> <p>(4 池邊 敏子) 精神障害者のセルフケアならびに自立生活を促進し、地域で生活する精神障害者への看護サービスの質向上に繋がる研究を指導する。</p> <p>(5 梶原 睦子) がんの診断時からがんサバイバーにある時期、および終末期における患者本人とその家族の適応やセルフケア、問題解決法など看護の質向上に寄与する援助法について追究する研究を指導する。</p> <p>(6 安藤 智子) 高齢者保健福祉分野において保健師が行う地域ケアシステム構築と評価、介護予防ケアマネジメントを通じた高齢者の健康増進・介護予防支援、高齢者虐待予防・支援における保健師の援助を追究する研究を指導する。</p> <p>(1) 原 美弥子) 地域高齢者および地域心臓病患者の心身の健康維持・向上と共に外来における心臓リハビリテーションプログラム開発に繋がる研究を指導する。</p>	
<p style="text-align: center;">育成分野看護学特論</p>	<p style="text-align: center;">育成分野看護学特論</p>	<p>育成分野看護学特論Ⅰ（小児看護学特論Ⅰ）</p> <p>小児看護の立場から子どもと家族をとりまく今日的課題を理解できるように、子どもの健康問題の特徴、幅広く関連する概念、諸理論、および小児医療、福祉、教育の制度、政策を教授する。また、健康をアセスメントし評価する方法と技法、および解決方法や支援方法の基礎となる最新の理論について教授する。</p> <p><オムニバス方式/全15回> (2 前田 和子/5回) 本科目の概要と意義を高度実践看護と結び付けて説明するとともに、子どもと家族を理解するための原則、子どもとその家族の権利保障とFamily-centered Care、子どもの心理社会的発達の理解と評価、発達の評価と看護への応用、養育環境に関する諸理論の理解と活用を教授する。</p> <p>(14 市原 真穂/6回) 国内外の小児をとりまくヘルスケアに関連する課題、医療、保健、福祉、教育の現状と小児看護におけるケアシステム上の課題、親子関係と養育環境の評価、子どもの成長の理解と評価、フィジカルアセスメント、子どもの各成長・発達の段階からみた健康上の課題と解決方法の探索、病気や障害のある子どもと家族に対する支援、問題解決方法を教授する。</p> <p>(18 下野 純平/1回) ハイリスク新生児とその家族をとりまく今日的課題、子どもと家族が抱える健康問題に対する支援、問題解決方法を教授する。</p> <p>(2 前田 和子・14 市原 真穂・18 下野 純平/3回)(共同) 学生との討議を通して、親子関係の発達と評価として愛着理論、各国におけるFamily-Centered Careの取り組みについて理解を導き、最終日には、小児看護の今後の方向性について総括する。</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p> <p>講義：27時間 演習：3時間</p>

専 門 科 目 育 成 分 野 看 護 学	育成分野看護学特論Ⅱ（小児看護学特論Ⅱ）	<p>看護の立場から小児とその家族を理解するために必要な諸理論を幅広く紹介し、各テーマに応じて実践経験または文献事例について、諸理論を用いて分析する方法を教授する。</p> <p><オムニバス方式/全15回> (2 前田 和子/5回) 本科目の概要と意義を高度実践看護と結び付けて説明するとともに、子どもと家族を理解するための原則、認知の発達に関する保健看護に関連した事例の分析、社会性の発達に関連した事例の分析方法を教授する。</p> <p>(14 市原 真穂/6回) 愛着および対人関係の発達に関連した事例の分析方法、セルフケア能力の発達に関連した事例の分析方法、ストレスへの対処能力の発達に関連した事例の分析方法を教授する。</p> <p>(2 前田 和子・14 市原 真穂・18 下野 純平/4回)(共同) 学生との討議を通して、家族理論を活用したハイリスク新生児、障害をもつ子ども、慢性状態の子どもの事例の分析方法の理解を導く。最終日には諸理論の小児看護実践への活用に関して、討議を経て総括する。</p>	オムニバス方式・共同(一部) 講義：24時間 演習：6時間
	育成分野看護学特論Ⅲ（小児看護学特論Ⅲ）	<p>歴史的観点から、我が国における小児保健、小児医療、福祉、教育の制度や政策を概観するとともに、子どもとその家族を取り巻く保健、医療、福祉、教育の現状と課題を把握し、その解決のために必要な調整を含むさまざまな方略や対策について提案できるように、教授する。</p> <p><オムニバス方式/全15回> (2 前田 和子/4回) 国内外の小児医療・福祉・教育および小児保健看護の歴史的変遷と課題、我が国のさまざまな状況にある子どもと家族が現在活用できる小児保健・医療・福祉・教育の制度や政策と根拠となる法律ならびに条約を教授する。</p> <p>(14 市原 真穂/2回) 千葉県および近隣県の子どもと家族に関する保健、医療、福祉、教育の特徴と課題を教授する。</p> <p>(14 市原 真穂・18 下野 純平/2回)(共同) 学生との討議により、我が国の子どもと家族が直面している保健、医療、福祉、教育上の課題の理解を導く。</p> <p>(2 前田 和子・14 市原 真穂・18 下野 純平/7回)(共同) 本科目の概要と意義を高度実践看護と結び付けて説明する。また、保健、医療、福祉、教育に関連する事例を通して課題の解決にむけた実施すべき調整の方法や行動について学生と討議する。および、学生による発表と引き続き討議により子どもを取り巻く社会的な課題を分析するために必要な法律および統計、資料、年鑑等の文献収集と活用法の理解、修得を導く。</p>	オムニバス方式・共同(一部) 講義：18時間 演習：12時間
	育成分野看護学特論Ⅳ（小児看護学特論Ⅳ）	<p>小児期に特徴的な小児内科、小児外科疾患への治療、および、生活機能を脅かす障害に対するアプローチを理解し、高度実践看護を提供できるように、病態生理、検査と解釈法、治療法、症状マネジメントについて教授する。</p> <p><オムニバス方式/全15回> (54 北村 知宏/4回) 新生児の疾患、先天代謝異常・代謝疾患、小児期に特徴的な内分泌疾患、小児期に特徴的な免疫疾患・アレルギー疾患・膠原病および類縁疾患の病態とその治療法について教授する。</p> <p>(55 谷口 明德/8回) 小児期に特徴的な感染症、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、血液・造血器疾患、新生物、腎・泌尿器および生殖器疾患、神経・筋疾患の病態とその治療法について教授する。</p> <p>(2 前田 和子・14 市原 真穂・18 下野 純平・54 北村 知宏/1回)(共同) 本科目の概要と意義を高度実践看護と結び付けて説明する。さらに、先天異常・遺伝性疾患の病態治療法を教授する。</p> <p>(2 前田 和子・14 市原 真穂・18 下野 純平・54 北村 知宏・55 谷口 明德/2回)(共同) 学生との討議を通して、検査・治療を要する子どもとその家族に必要な高度実践看護について総括する。</p>	オムニバス方式・共同(一部) 講義：28時間 演習：2時間

専門科目 育成分野看護学	育成分野看護学特論Ⅴ（小児看護学特論Ⅴ）	<p>小児期に特徴的な運動器・感覚器系疾患と精神疾患・心身医学的問題の治療法、および生活機能を脅かす障害に対するアプローチを理解し、高度実践看護を提供できるように病態生理、検査と解釈法、治療法、症状マネジメントについて教授する。</p> <p><オムニバス方式/全15回></p> <p>(26 森 雅博/2回) 小児期に特徴的な薬物動態・薬物代謝について教授する。</p> <p>(54 北村 知宏/2回) 小児の検査基準値と年齢別変化について教授する。</p> <p>(55 谷口 明德/2回) 小児期に特徴的な感覚器の疾患、精神疾患・心身医学的問題の病態とその治療法について教授する。</p> <p>(2 前田 和子・14 市原 真穂・18 下野 純平/8回) (共同) 学生との討議を通して、糖尿病、腎臓病、中心静脈栄養など栄養療法が必要な子どもの看護、および、発熱、痛み、カタル症状、かゆみ、嘔気・嘔吐など小児期に特徴的な症状マネジメントについて教授する。最終日には、学生との討議により、複雑で多様な身体的、心理的ニーズをもつ子どもへの高度実践看護について総括する。</p> <p>(2 前田 和子・14 市原 真穂・18 下野 純平・54 北村 知宏・55 谷口 明德/1回) (共同) 本科目の概要と意義について、病態生理、検査と解釈法、治療法、症状マネジメントを高度実践看護に結び付けて説明する。さらに、小児期に特徴的な運動器(骨および関節)の疾患の病態と治療法について教授する。</p>	オムニバス方式・共同(一部) 講義：22時間 演習：8時間
	育成分野看護学特論Ⅵ（小児看護学特論Ⅵ）	<p>小児看護における高度実践看護を支える理論、モデルを理解し、複雑で多様な状況に対する倫理的判断および臨床的判断に基づいた援助方法を修得できるように、小児専門看護師の役割について教授する。</p> <p><オムニバス方式/全15回></p> <p>(14 市原 真穂/5回) 高度実践看護を支えるコンピテンシー、理論、モデルについて、小児看護の実践の場におけるケアシステムに関連する課題、医療従事者の倫理的感受性を高めるための方略、医療ニーズが高く、重度の生活機能障害を持つ困難事例における小児看護専門看護師役割と実際、医療ニーズが高く、重度の生活機能障害を持つ困難事例における臨床判断を含む小児看護専門看護師役割と実際を教授する。</p> <p>(56 石川 由美香/2回) 小児集中治療室における臨床判断を含む小児看護専門看護師の役割と実際、急性期、および、強い身体侵襲を伴う治療における臨床判断を含む小児看護専門看護師の役割と実際を教授する。</p> <p>(57 田村 恵美/2回) 長期的なフォローアップが必要な困難事例における臨床判断を含む小児看護専門看護師の役割と実際、終末期にある子どもと家族の看護、慢性疾患の成人期移行支援における臨床判断を含む小児看護専門看護師の役割と実際を教授する。</p> <p>(58 石井 由美/1回) セルフマネジメントを要する慢性疾患をもつ困難事例における臨床判断を含む小児看護専門看護師の役割と実際を教授する。</p> <p>(2 前田 和子・14 市原 真穂・18 下野 純平/5回) (共同) 本科目の概要と意義を高度実践看護と結び付けて説明する。学生との討議を通して、小児看護領域の看護倫理における取り組みと流れについて理解を導き、倫理的問題を有する子どもへの看護の提案できるように教授する。最終日には、小児看護における高度実践看護を支える理論、モデルを理解し、複雑で多様な状況に対する倫理的判断および臨床的判断に基づいた援助方法について総括する。</p>	オムニバス方式・共同(一部) 講義：18時間 演習：12時間

専 門 科 目 育 成 分 野 看 護 学	育成分野看護学特論Ⅶ（母性看護学特論）	<p> ウィメンズヘルスの視点から女性のライフサイクル各期の健康問題について、身体的・心理的・社会的視野から捉え、女性の生涯の健康を考えるうえで、一連の発達過程の中で多面的な変化、およびその対処について教授する。 特に、周産期の母子を中心に女性の健康支援のあり方やソーシャルサポートなどの援助や諸問題を探究する。 </p> <p> <オムニバス形式/全15回> (8 村山 より子/8回) 村山は、女性の生涯の健康を考えるうえで核となるウィメンズヘルスの概念、女性のライフステージとヘルスケア、健康科学的視点からみた女性の特徴、女性のライフステージとその特徴においては思春期と成熟期について教授する。加えて、マタニティサイクルとメンタルヘルスについて教授する。 </p> <p> (9 水野 千奈津/5回) 水野は、女性のライフステージとその特徴において更年期について教授する。加えて、周産期ケア理論と母子保健行政・周産期ケアシステムの成り立ちについて教授する。 </p> <p> (8 村山 より子・9 水野 千奈津/2回) (共同) 村山と水野は共同で、初回授業において本授業のねらいを明らかにし、最後の授業では母性看護（ウィメンズヘルスケア）の今後の方向として総括を行う。 </p>	オムニバス方式・共同(一部)
	育成分野看護学特別演習Ⅰ（小児看護学特別演習Ⅰ）	<p> 小児看護の立場から健康レベル、発達段階に応じて、子どもと家族を適切に支援するために、科学的根拠に基づき、小児の発達と家族との関係、成長・発達のアセスメントと評価、支援方法、保健・医療環境の改善、制度への提言、支援システム構築ができるように教授する。 </p> <p> <オムニバス方式/全30回> (14 市原 真穂/4回) 小児看護活動上のコンサルテーションにおける評価および看護の方法、小児看護活動上のコーディネーションにおける評価および看護の方法について教授する。 </p> <p> (14 市原 真穂・18 下野 純平/4回) (共同) 新生児、ハイリスク児のフィジカルアセスメント、新生児、ハイリスク児、病気や障害のある子どもを育てる家族の反応、両親の役割とその評価の応用、健康問題をもつ子どもとその家族に対するケアシステム上の課題とその対策を教授する。 </p> <p> (2 前田 和子・14 市原 真穂・18 下野 純平/22回) (共同) 本科目の概要と意義を高度実践看護と結び付けて説明する。学生による発表とそれに引き続く討議により、小児看護活動における重要概念と応用、子どもの自己概念における評価および看護の方法、子どものストレスとコーピング・防衛機制における評価および看護の方法、子どもの喪失と悲嘆、親の喪失と悲嘆における評価および看護の方法、子どもの恐れ・否定的感情における評価および看護の方法、子どもの痛みにおける評価および看護の方法、子どもの発達および養育環境の評価と応用、病院環境の評価と応用、子どもの身体的アセスメントの特徴と方法、検査・治療・入院を必要とする子どもへの教育における評価および看護ケア、さまざまな障害を持つ子どもの親への教育における評価および看護方法の理解を導く。最終日には、学生による発表とその後の討議を通して総括する。 </p>	オムニバス方式・共同(一部)

専 門 科 目	育 成 分 野 看 護 学	育成分野看護学特別演習Ⅱ (小児看護学特別演習Ⅱ)	<p>子どもとその家族の状態を包括的に査定するための原則と方略や技術・技法、援助効果を評価するための原則や手法、さらに、アセスメントと評価をどう援助に結びつけるかその原則と方略について教授する。</p> <p><オムニバス方式/全30回> (46 鈴木 新/4回) 子どもの発達の評価方法について、実際の発達評価場面における具体的な方法を教授し、評価実技の理解を導く。</p> <p>(59 門間 智子/2回) 摂食嚥下機能の評価と援助方法、栄養と評価と援助方法について、具体的事例場面を示しながら教授する。</p> <p>(2 前田 和子・14 市原 真穂/2回) (共同) JDDST (Japanese Version of Denver Developmental Screening Test)、DENVER II、UDSTによる発達評価について、模擬演習により具体的な手技と判定について理解と修得を導く。</p> <p>(2 前田 和子・18 下野 純平/2回) (共同) 子どもの行動様式の理解、および評価について、模擬事例及び学生が観察してきた事例を用いて教授し、評価方法の理解と修得を導く。</p> <p>(14 市原 真穂・18 下野 純平/8回) (共同) 発達段階に応じた子どもの看護場面におけるフィジカルアセスメントの具体的な方法について、シュミレーターを用いた実技を通して教授する。</p> <p>(14 市原 真穂・60 高木 典子/2回) (共同) 重症心身障害児の重症度、生活自立度のアセスメントについて事例を用いて教授し、具体的方法の理解、修得を導く。</p> <p>(2 前田 和子・14 市原 真穂・18 下野 純平/10回) (共同) 本科目の概要と意義を高度実践看護と結び付けて説明する。学生の発表とその後の討議を通して、子どもや家族との面接技法、子どもの養育環境評価方法について模擬演習等を通して教授する。最終日には、子どもとその家族の状態を包括的に査定する際の原則と方略、及び援助効果を評価するための原則や手法を振り返り、アセスメントと評価をどう援助に結びつけるかについて総括する。</p>	オムニバス方式・ 共同(一部)
		育成分野看護学特別演習Ⅲ (小児看護学特別演習Ⅲ)	<p>小児期に一般的な疾患の診断・治療に必要な知識と技術に基づき、看護実践に必要なアセスメント、特にフィジカルアセスメントの原則と技法を教授する。また、健康上の問題がある子どもとその家族に対して、倫理的判断および臨床判断に基づき、状況に応じた援助方法を他職種との協働を含め探究、実施、分析、評価について教授する。</p> <p><オムニバス方式/全15回> (14 市原 真穂・61 北澤 克彦/11回) (共同) 本科目の概要と意義を高度実践看護と結び付けて説明する。医師による小児の診察場面における診断技術の原則、小児の診察技術とアセスメントの基本を教授する。</p> <p>(18 下野 純平・61 北澤 克彦/2回) (共同) 子どもの心電図、単純X線検査、特殊X線検査、超音波検査、脳波検査、視力検査、聴力検査などの検査方法と看護援助、結果の判読の基本を教授する。</p> <p>(2 前田 和子・14 市原 真穂・18 下野 純平・61 北澤 克彦/2回) (共同) 学生による事例発表とそれに引き続く討議を通して、健康上の問題がある子どもとその家族に対する倫理的判断および臨床判断に基づき、かつ、状況に応じた援助方法を他職種との協働を含め探究、実施、分析、評価について総括し、高度実践看護の提案を導く。</p>	オムニバス方式・ 共同(一部)
		育成分野看護学特別演習Ⅳ (小児看護学特別演習Ⅳ)	<p>多様で解決困難な問題を抱える子どもと家族に対して、倫理的判断および臨床判断に基づき、状況に応じた援助方法を他職種との協働を含め探究、実施、分析、評価する高度実践看護について教授する。</p>	共同 講義：1時間 演習：29時間
		育成分野看護学特別演習Ⅴ (母性看護学特別演習)	<p>女性のライフサイクル各期の健康問題に対して、ウィメンズヘルスケア(母性看護)がエビデンスに基づいて実践できるよう重要な概念、学術的理論(社会学、教育学、文化人類学、心理学分野など)を国内外の文献を講読し、分野の知識を深め、研究課題や実習課題を明確にできるように教授する。</p>	共同

専 門 科 目 育 成 分 野 看 護 学	育成分野看護学実習Ⅰ（実践）	育成分野看護学特論Ⅰ（小児看護学特論Ⅰ）または育成分野看護学特論Ⅶ（母性看護学特論）ならびに育成分野看護学特別演習Ⅰ（小児看護学特別演習Ⅰ）または育成分野看護学特別演習Ⅴ（母性看護学特別演習）の学修を基に、学生の研究課題解決に参考となるモデル施設において、実践への参加から解決方法を探究する。実践において多職種連携、調整、コンサルテーションなど、必要な技法を教授する。	
	育成分野看護学実習Ⅱ（教育）	「実践看護学教育の理論と方法」を基に、継続教育と連結する看護学基礎教育を学ぶ学士課程の理解、教育者としての自覚・意識の涵養、効率的な教育およびコーチングの方法を教授する。具体的には、当看護学科の関心ある講義科目、演習科目、実習科目の中から1科目を選択させ、指導教員の下で、看護学部学生を対象に授業が行なえるよう教授する。	
	育成分野看護学課題実習Ⅰ	医学的視点から小児の診断・治療について理解を深め、医師・薬剤師などの役割を理解するとともに変化していく看護の役割を明確にし、他職種と相互的な役割をもち協働およびケアコーディネイトして、質の高いヘルスケアサービスの提供に貢献できる能力がつくように指導する。	
	育成分野看護学課題実習Ⅱ	複雑で多様なニーズによる解決困難な問題をもつ子どもとその家族に対し看護を実践し、高度な看護実践技術を習得するとともに、コンサルテーション・教育・調整・倫理調整など小児看護専門看護師の役割を果たすための基本的能力がつくように指導する。	
	育成分野看護学課題実習Ⅲ	実習施設の小児看護専門看護師の指導の下、複雑で多様なニーズによる解決困難な問題をもつ子どもとその家族に対し看護を実践し高度な実践技術を習得するとともに、医療システムの質を改善するための実効性のある提言、ならびにコンサルテーション・教育・調整・倫理調整など総合的に小児看護専門看護師の役割を実践し、評価できるように指導する。	
	育成分野看護学特別研究	育成分野看護学において文献検討を経て院生が自ら研究課題をみつけ、方法論と方法を選択し、データを収集し、結果を分析、考察を経て修士論文執筆へと導く。この過程から学問をする態度、倫理、科学的思考を深め、学問による社会的貢献と、学問の意義を探究する。 (2 前田 和子) 子どもの行動上の問題、養育上の問題をもつ親への支援、乳幼児から学童の自己概念、種々の障害をもつ子どもの療育環境と小児リハビリテーション、重症心身障害児やNICU入院児をもつ親の役割と家族支援・退院支援、小児看護教育等について研究指導を行う。 (8 村山 より子) ウィメンズヘルスの視点から、女性のライフステージの各段階における健康問題に関する研究指導を行う。特に思春期の性に関する健康問題、望まない妊娠などリプロダクティブヘルス・ライツに関する研究指導をおこなう。また、死産性比など保健統計から母子保健に関する研究や周産期ケアに関する研究指導をおこなう。 (9 水野 千奈津) ウィメンズヘルスの基本理念であるリプロダクティブヘルス/ライツの観点から、対象の健康を左右する状況について多角的視野を持ち、諸外国における状況と対比させながらウィメンズヘルスの水準と女性のライフサイクル全般にわたる健康課題についての要因分析、介入ならびに評価方法に関する研究を指導する。 (14 市原 真穂) 病気や障害をもつ医療依存度が高い子どもの身体状態の調整と影響要因、子どもと家族の日常生活の調整と影響要因、子どもと家族のQOLの向上にむけた看護について研究指導を行う。 (18 下野 純平) 重症心身障害児やNICU入院児をもつ親（特に父親）の役割と家族支援に関するテーマについて研究指導を行なう。	

専 門 科 目 育 成 分 野 看 護 学	育成分野看護学実践特別研究	<p>育成分野看護学に関連した現場の中で自ら選択する課題に焦点をあて、課題に関する最新の知識を収集し理解した上で、問題解決の方法論と方法を考究し、実践の結果を分析、考察して修士論文執筆へと導く。この過程から科学的根拠に基づいた実践を理解し、研究倫理、科学的思考を深め、現場の質改善への貢献を探究する。</p> <p>(2 前田 和子) 種々の障害をもつ子どもの療育環境と小児リハビリテーション、重症心身障害児やNICU入院児をもつ親の役割と家族支援・退院支援、小児看護現任教育等をテーマに、看護実践の質向上に資する研究を指導する。</p> <p>(8 村山 より子) ウィメンズヘルスの観点から、周産期ケア・分娩介助技術や乳房ケアなど助産技術に関する研究テーマに、助産実践の質向上に資する研究指導を行う。</p> <p>(9 水野 千奈津) ウィメンズヘルスのさらなる充実に向けて、女性や母子、その家族のライフサイクル上における今日的な健康問題ならびに課題とその解決方法をWomen-Centered Careの在り方と共にリプロダクティブヘルス/ライツを基盤概念に持ち、多面的な視野からのアプローチメソッドをもって研究指導する。</p> <p>(14 市原 真穂) 病気や障害をもつ医療依存度が高い子どもの身体状態の調整、子どもと家族の日常生活の調整、子どもと家族のQOLの向上にむけた看護、ケアシステムの改善をテーマに、看護実践の質向上に資する研究を指導する。</p> <p>(18 下野 純平) NICUにおいて重度障害をもつ親（特に父親）の役割と家族支援に関するテーマについて研究指導を行なう。</p>	
	育成分野看護学課題研究	<p>小児看護領域に関連した現場において、高度実践看護師として直面する課題に焦点をあて、講義・演習・実習を通して得た知識・技術を活用して、看護実践の改善・改革に取り組んだ成果を課題研究論文としてまとめ、発表するまでを指導する。</p> <p>(2 前田 和子) NICU、小児病棟、小児リハビリテーション病棟において、高度実践者（小児看護専門看護師）が直面する課題のうち、特にチームアプローチ、多職種連携、施設の方針や体制の改善、子どもと家族に対する看護ケアの質改善と小児看護の継続教育・コーチング等について研究指導を行なう。</p> <p>(14 市原 真穂) NICU、小児病棟、小児外来、小児リハビリテーション病棟、療育施設、福祉施設、在宅ケア施設等において、高度実践者（小児看護専門看護師）が直面する課題のうち、ケアシステムに関すること、チームアプローチ、多職種連携、看護ケアの質改善に関すること、継続教育・コーチング等について研究指導を行なう。</p> <p>(18 下野 純平) NICUにおいて高度実践看護師（小児看護専門看護師）が直面する課題の中で、子どもと家族に対する看護ケアの質向上に関する研究指導を行なう。</p>	

専 門 科 目 危 機 管 理 分 野 看 護 学	危機管理分野看護学特論Ⅰ (災害看護学特論)	<p>災害に伴う人々の生活と健康、地域社会への影響と看護に関する現状からエビデンスを探究し、災害看護の発展に導く危機管理能力について教授する。また、防災と減災、危機管理体制の在り方、健康で安全・安心な社会の構築に向けて、看護の視点から災害対応の概要を教授する。さらに、感染症の流行や感染予防に関する危機管理対策を教授する。</p> <p><オムニバス方式/全15回> (10 梅田 君枝/6回) 責任教員として本授業を包括的に運営する。前半は、危機と災害に関する理論と概念、災害に関する法律、社会制度について教授する。さらに復興、再建期の看護支援と評価法、地域社会における防災対策、減災対策の実際を教授し、災害看護に関する最新の知見と動向を俯瞰し、総括を行う。</p> <p>(15 城戸口 親史/4回) 災害時の対象特性と看護における対象理解、初動活動と多職種連携の実際について教授する。また、感染防護策における看護職の役割について教授する。</p> <p>(63 山崎 達枝/5回) 災害対応として重要な、災害時要配慮者に対する援助技法、災害と精神衛生、遺族への関わりについて教授する。さらに惨事ストレスと看護、災害発生後の避難所・福祉避難所での支援活動、在宅被災者の支援について教授する。</p>	オムニバス方式 講義：26時間 演習：4時間
	危機管理分野看護学特論Ⅱ (リスクマネジメント看護学特論)	<p>看護実践における事故の原因分析、医療安全のリスク分析・評価の方法の考え方、代表的な分析方法・訓練方法を探究する。その上で、看護実践の質と安全の教育について追究する。</p> <p><オムニバス方式/全15回> (11 富樫 千秋/12回) 富樫は、責任教員として本授業を包括的に運営していく。そのために初回授業において本授業のねらいを明らかにしていく。さらに、医療安全とリスクマネジメントの歴史と動向、看護実践における事故の原因分析、医療安全のリスク分析・評価の方法、看護実践の質と安全の方策について教授する。加えて、当該演習に関し総括を行う。</p> <p>(11 富樫 千秋・64 布施 淳子/2回)(共同) 看護実践における事故の原因分析、RCA(根本原因分析)について、その分析方法の実際について教授する。また、医療安全のリスク分析・評価の方法、HFMEA(設定故障モード影響解析方法)の実際について教授する。</p> <p>(11 富樫 千秋・15 城戸口 親史/1回)(共同) 看護実践の質と安全の方策、その一つである院内感染対策について教授する。</p>	オムニバス方式・ 共同(一部)

専 門 科 目 危 機 管 理 分 野 看 護 学	危機管理分野看護学特別演習Ⅰ（災害看護学特別演習）	<p>健康で安全・安心な社会の構築に向けて、災害や社会的リスクに関する看護の課題や成果を抽出し、具体的事例を基に分析、評価を行い、課題解決や成果の検証に向けたエビデンスについて教授する。課題解決のための一連の過程から得た知見をもとに、防災、減災、社会の危機予防に向けたプランについて教授する。</p> <p>また、災害発生後の支援体制の構築についてシミュレーションし、被災者の立場に立ち二次災害を防ぐ支援技術を教授する。</p> <p><オムニバス方式/全30回> (10 梅田 君枝/11回) 責任教員として本授業を包括的に運営する。初回にオリエンテーションを行い、続いて、災害や社会の危機的状態に関する看護の課題の抽出、具体的事例の分析、評価を行い、課題解決や成果の検証に向けたエビデンスの収集につなげるよう教授する。さらに、防災、減災、危機やリスク予防のプラン作成に取り組み、最後に演習の総括を行う。</p> <p>(12 岩瀬 靖子/1回) 災害時の広域看護活動と支援の実際について教授する。</p> <p>(13 吉野 由美子/2回) 精神障がい者と災害時の対応について教授する。</p> <p>(15 城戸口 親史/3回) 災害時の被災支援者の支援体制、感染防護策における危機管理体制と看護職の役割について教授する。</p> <p>(19 小磯 京子/2回) 原発避難者の継続的な災害支援活動の実際について教授する。</p> <p>(20 大塚 朱美/1回) 障がい者の災害時の対応と災害時コミュニケーション方法について教授する。</p> <p>(63 山崎 達枝/8回) 惨事ストレスと支援体制の構築、避難所支援技術の開発、災害時要配慮者の支援技術の開発、災害時の精神衛生と危機管理について教授する。</p> <p>(10 梅田 君枝・15 城戸口 親史/2回) (共同) 課題の中間発表、および最終発表を行い、課題に関するエビデンスを明らかにする。</p>	オムニバス方式・共同(一部) 講義：10時間 演習：50時間
	危機管理分野看護学特別演習Ⅱ（リスクマネジメント看護学特別演習）	エビデンスに基づいてリスクマネジメントに関わる看護実践できるように、リスクマネジメントに関連する考え方、リスクマネジメントに関連する最近の国内外の文献の講評を行い、リスクマネジメントに関わる課題を明らかにし、研究方法、解決方法を追究する。	
	危機管理分野看護学実習Ⅰ（実践）	危機管理分野看護学における自己の課題と密に関わる看護学特論ならびに当該特別演習の学修を基に、自己の研究課題解決策に参考となるモデル施設において、実践に参加しながら解決方法を探究する。実践において、多職種連携・調整・コンサルテーションなどの技法を教授する。	
	危機管理分野看護学実習Ⅱ（教育）	「実践看護学教育の理論と方法」を基に、継続教育と連結する看護学基礎教育を学ぶ学士課程の理解、教育者としての自覚・意識の涵養、効率的な教育およびコーチングの方法を教授する。具体的には、当看護学科の関心ある講義科目、演習科目、実習科目を選択させ、指導教員の下で、看護学部生を対象に授業が行なえるように教授する。	

専門科目 危機管理分野看護学	危機管理分野看護学特別研究	<p>危機管理分野看護学において文献検討を経て院生が自ら研究課題をみつけ、方法論と方法を選択し、データを収集し、結果を分析、考察を経て修士論文執筆へと導く。この過程から学問をする態度、倫理、科学的思考を深め、学問による社会的貢献と、学問の意義を探究する。</p> <p>(10 梅田 君枝) 災害は多発し複雑化しており、健康危機管理と看護の開発が重要である。災害時の疾病予防、リスク低減、中長期の支援、高齢者や健康障害を持つ人々への支援、支援システム構築に関するテーマについて研究を指導する。</p> <p>(11 富樫 千秋) 看護実践における医療事故やインシデント・アクシデントに関わる研究、看護の実践の質と安全と関わるを看護師の離職、健康、新人看護師の支援に関するテーマについて研究を指導する。</p> <p>(15 城戸口 親史) 災害時における対象特性ならびに看護職の役割探求および効果的支援方法の開発について研究指導する。 職業感染対策に関する看護職の役割探求および効果的支援方法の開発に関する研究指導する。</p>	
	危機管理分野看護学実践特別研究	<p>危機管理分野看護学に関連した現場の中で自ら選択する課題に焦点をあて、課題に関する最新の知識を収集し理解した上で、問題解決の方法論と方法を考究し、実践の結果を分析、考察して修士論文執筆へと導く。この過程から科学的根拠に基づいた実践を理解し、研究倫理、科学的思考を深め、現場の質改善への貢献を探究する。</p> <p>(10 梅田 君枝) 災害は多発し複雑化しており、健康危機管理と看護の質の確保が重要である。災害時の疾病予防、リスク低減、中長期の支援、高齢者や健康障害を持つ人々への支援、支援システム構築に関するテーマについて研究を指導する。</p> <p>(11 富樫 千秋) 看護実践における医療事故やインシデント・アクシデントに関わる研究、看護の実践の質と安全と関わるを看護師の離職、健康、新人看護師の支援に関するテーマについて研究を指導する。</p> <p>(15 城戸口 親史) 災害時における被災現場の看護職の役割探求およびそのニーズに関する研究を指導する。 感染患者の看護、職業感染対策における看護職の役割探求や課題について研究指導する。</p>	

学校法人加計学園 設置認可申請に関わる組織の移行表

平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
千葉科学大学					千葉科学大学				
薬学部 薬学科	120	—	720	→	薬学部 薬学科	120	—	720	
薬学部 生命薬科学科	40	—	160		薬学部 生命薬科学科	35	—	140	定員変更(Δ5)
危機管理学部 危機管理システム学科	100	—	400		危機管理学部 危機管理システム学科	100	—	400	
危機管理学部 環境危機管理学科	40	—	160		危機管理学部 環境危機管理学科	40	—	160	
危機管理学部 医療危機管理学科	80	—	320		危機管理学部 医療危機管理学科	80	—	320	
危機管理学部 航空技術危機管理学科	40	—	160		危機管理学部 航空技術危機管理学科	40	—	160	
危機管理学部 動物危機管理学科	40	—	160		危機管理学部 動物危機管理学科	40	—	160	
看護学部 看護学科	80	—	320		看護学部 看護学科	80	—	320	
計	540		2400		計	535		2380	
千葉科学大学大学院					千葉科学大学大学院				
薬学研究科 薬学専攻 (D)	3	—	12	→	薬学研究科 薬学専攻 (D)	3	—	12	
薬学研究科 薬科学専攻 (D)	5	—	15		薬学研究科 薬科学専攻 (D)	5	—	15	
薬学研究科 薬科学専攻 (M)	10	—	20		薬学研究科 薬科学専攻 (M)	10	—	20	
危機管理学研究科 危機管理学専攻 (D)	3	—	9		危機管理学研究科 危機管理学専攻 (D)	3	—	9	
危機管理学研究科 危機管理学専攻 (M)	5	—	10		危機管理学研究科 危機管理学専攻 (M)	5	—	10	
					看護学研究科 看護学専攻 (M)	5	—	10	研究科の設置 (認可申請)
計	26		66		計	31		76	
千葉科学大学留学生別科					千葉科学大学留学生別科				
留学生別科	40	—	40		留学生別科	40	—	40	
岡山理科大学					岡山理科大学				
理学部 応用数学科	110	—	440	→	理学部 応用数学科	110	—	440	
理学部 化学科	75	—	300		理学部 化学科	75	—	300	
理学部 応用物理学科 物理科学専攻	45	—	180		理学部 応用物理学科 物理科学専攻	45	—	180	
理学部 応用物理学科 臨床工学専攻	30	—	120		理学部 応用物理学科 臨床工学専攻	30	—	120	
理学部 基礎理学科	90	—	360		理学部 基礎理学科	90	—	360	
理学部 生物化学科	95	—	380		理学部 生物化学科	95	—	380	
理学部 臨床生命科学科	95	—	380		理学部 臨床生命科学科	95	—	380	
理学部 動物学科	45	—	180		理学部 動物学科	45	—	180	
工学部 ハイ・応用化学科	85	—	340		工学部 ハイ・応用化学科	85	—	340	
工学部 機械システム工学科	90	—	360		工学部 機械システム工学科	90	—	360	
工学部 電気電子システム学科	70	—	280		工学部 電気電子システム学科	70	—	280	
工学部 情報工学科	95	—	380		工学部 情報工学科	95	—	380	
工学部 知能機械工学科	55	—	220		工学部 知能機械工学科	55	—	220	
工学部 生命医療工学科	60	—	240		工学部 生命医療工学科	60	—	240	
			3年次					3年次	
工学部 建築学科	75	5	310		工学部 建築学科	75	5	310	
総合情報学部 情報科学科	100	—	400		総合情報学部 情報科学科	100	—	400	
生物地球学部 生物地球学科	140	—	560		生物地球学部 生物地球学科	140	—	560	
教育学部 初等教育学科	70	—	280		教育学部 初等教育学科	70	—	280	
教育学部 中等教育学科	60	—	240		教育学部 中等教育学科	60	—	240	
経営学部 経営学科	130	—	520		経営学部 経営学科	130	—	520	
			3年次		獣医学部 獣医学科	140	—	840	学部の設置 (認可申請)
			3年次		獣医学部 獣医保健看護学科	60	—	240	学部の設置 (認可申請)
計	1615	5	6470		計	1815	5	7550	
岡山理科大学大学院					岡山理科大学大学院				
理学研究科 応用数学専攻 (D)	4	—	12	→	理学研究科 応用数学専攻 (D)	4	—	12	
理学研究科 材質理学専攻 (D)	9	—	27		理学研究科 材質理学専攻 (D)	9	—	27	
理学研究科 応用数学専攻 (M)	6	—	12		理学研究科 応用数学専攻 (M)	6	—	12	
理学研究科 化学専攻 (M)	16	—	32		理学研究科 化学専攻 (M)	16	—	32	
理学研究科 応用物理学専攻 (M)	13	—	26		理学研究科 応用物理学専攻 (M)	13	—	26	
理学研究科 総合理学専攻 (M)	12	—	24		理学研究科 総合理学専攻 (M)	12	—	24	
理学研究科 生物化学専攻 (M)	13	—	26		理学研究科 生物化学専攻 (M)	13	—	26	

平成29年度	入学定員	編入学定員	収容定員
理学研究科 臨床生命科学専攻 (M)	12	—	24
理学研究科 動物学専攻	4	—	8
工学研究科 システム科学専攻 (D)	5	—	15
工学研究科 応用化学専攻 (M)	13	—	26
工学研究科 機械システム工学専攻 (M)	13	—	26
工学研究科 電子工学専攻 (M)	8	—	16
工学研究科 情報工学専攻 (M)	10	—	20
工学研究科 知能機械工学専攻 (M)	8	—	16
工学研究科 生体医工学専攻 (M)	6	—	12
工学研究科 建築学専攻 (M)	8	—	16
総合情報研究科 数理・環境システム専攻 (D)	2	—	6
総合情報研究科 情報科学専攻 (M)	7	—	14
総合情報研究科 社会情報専攻 (M)	6	—	12
生物地球科学研究科 生物地球科学専攻 (M)	12	—	24
計	187	—	394

倉敷芸術科学大学	3年次	入学定員	編入学定員	収容定員
芸術学部 メディア映像学科	50	2	—	204
芸術学部 デザイン芸術学科	55	—	—	220
生命科学部 生命科学科	50	—	—	200
生命科学部 健康科学科 健康科学専攻	55	—	—	220
生命科学部 健康科学科 鍼灸専攻	30	—	—	120
計	440	4	—	1768

倉敷芸術科学大学大学院	入学定員	編入学定員	収容定員
芸術研究科 芸術制作表現専攻 (D)	4	—	12
芸術研究科 美術専攻 (M)	10	—	20
産業科学技術研究科 機能物質化学専攻 (D)	2	—	6
産業科学技術研究科 機能物質化学専攻 (M)	8	—	16
人間文化研究科 人間文化専攻 (M)	15	—	30
計	39	—	84

倉敷芸術科学大学大学院 (通信制)	入学定員	編入学定員	収容定員
芸術研究科 美術専攻 (通信制) (M)	10	—	20
産業科学技術研究科 機能物質化学専攻 (通信制) (M)	20	—	40
人間文化研究科 人間文化専攻 (通信制) (M)	30	—	60
計	60	—	120

倉敷芸術科学大学留学生別科	入学定員	編入学定員	収容定員
留学生別科 (1年コース)	40	—	40
留学生別科 (1年半コース)	20	—	20
計	60	—	60

岡山理科大学専門学校	入学定員	編入学定員	収容定員
建築学科 夜間部	20	—	40
建築学科 昼間部	40	—	80
動物看護学科 看護医療コース	20	—	40
動物看護学科 高度看護医療・臨床検査コース	30	—	90
トリミング学科	40	—	80
ドッグトレーニング学科	40	—	80
アクアリウム学科	40	—	80
動物系研究科	10	—	10
建築系専攻科	10	—	10
計	250	—	510

平成30年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
理学研究科 臨床生命科学専攻 (M)	12	—	24	
理学研究科 動物学専攻	4	—	8	
工学研究科 システム科学専攻 (D)	5	—	15	
工学研究科 応用化学専攻 (M)	13	—	26	
工学研究科 機械システム工学専攻 (M)	13	—	26	
工学研究科 電子工学専攻 (M)	8	—	16	
工学研究科 情報工学専攻 (M)	10	—	20	
工学研究科 知能機械工学専攻 (M)	8	—	16	
工学研究科 生体医工学専攻 (M)	6	—	12	
工学研究科 建築学専攻 (M)	8	—	16	
総合情報研究科 数理・環境システム専攻 (D)	2	—	6	
総合情報研究科 情報科学専攻 (M)	7	—	14	
総合情報研究科 社会情報専攻 (M)	6	—	12	
生物地球科学研究科 生物地球科学専攻 (M)	12	—	24	
計	187	—	394	

倉敷芸術科学大学	3年次	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
芸術学部 メディア映像学科	50	2	—	204	
芸術学部 デザイン芸術学科	55	—	—	220	
生命科学部 生命科学科	50	—	—	200	
生命科学部 健康科学科 健康科学専攻	55	—	—	220	
生命科学部 健康科学科 鍼灸専攻	25	—	—	100	定員変更(Δ5)
計	435	4	—	1748	

倉敷芸術科学大学大学院	入学定員	編入学定員	収容定員
芸術研究科 芸術制作表現専攻 (D)	4	—	12
芸術研究科 美術専攻 (M)	10	—	20
産業科学技術研究科 機能物質化学専攻 (D)	2	—	6
産業科学技術研究科 機能物質化学専攻 (M)	8	—	16
人間文化研究科 人間文化専攻 (M)	15	—	30
計	39	—	84

倉敷芸術科学大学大学院 (通信制)	入学定員	編入学定員	収容定員
芸術研究科 美術専攻 (通信制) (M)	10	—	20
産業科学技術研究科 機能物質化学専攻 (通信制) (M)	20	—	40
人間文化研究科 人間文化専攻 (通信制) (M)	30	—	60
計	60	—	120

倉敷芸術科学大学留学生別科	入学定員	編入学定員	収容定員
留学生別科 (1年コース)	40	—	40
留学生別科 (1年半コース)	20	—	20
計	60	—	60

岡山理科大学専門学校	入学定員	編入学定員	収容定員
建築学科 夜間部	20	—	40
建築学科 昼間部	40	—	80
動物看護学科 看護医療コース	20	—	40
動物看護学科 高度看護医療・臨床検査コース	30	—	90
トリミング学科	40	—	80
ドッグトレーニング学科	40	—	80
アクアリウム学科	40	—	80
動物系研究科	10	—	10
建築系専攻科	10	—	10
計	250	—	510

平成29年度

入学
定員

編入学
定員

収容
定員

	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
玉野総合医療専門学校			
医療専門課程			
保健看護学科	40	—	160
理学療法学科	40	—	160
作業療法学科	40	—	160
教育・社会福祉専門課程		—	
介護福祉学科	40	—	80
計	160		560

→

平成30年度

入学
定員

編入学
定員

収容
定員

変更の事由

	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
玉野総合医療専門学校				
医療専門課程				
保健看護学科	40	—	160	
理学療法学科	40	—	160	
作業療法学科	40	—	160	
教育・社会福祉専門課程		—		
介護福祉学科	40	—	80	
計	160		560	